

資料7. 長期的学力評価計画（社会科（公民的分野）、中学校3年生）

（三藤あさみ「検討会で関連づけて思考する力を育成する」西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価 中学校』学事出版、2009年）

章末資料1. 社会科の長期的学力評価計画（公民的分野。第3学年）

評価の観点		私たちが現代社会	私たちが経済				私たちが政治				私たちが国際社会の諸課題			長期的ルーブリック（評価基準） ※ここではレベル2と4の部分を省略した。			
評価の観点		戦後の世界と日本	家族	消費と暮らし	価格と市場	企業のしくみと経済活動	政府の経済活動とその意義	人権思想の発展と日本国憲法	日本国憲法における基本的人権	議会制民主主義の意義としくみ	三権分立のしくみと意義	国際社会のしくみ	地球環境とエネルギー問題	世界の経済問題	1	3	5
指導要録の観点	具体化された観点																
社会的事象への関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	現代の社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとする。	○	○		○		○			○	○	○	現代の社会事象に関心が低く苦手意識を克服できない状態である。	現代の社会事象や課題に関心をもち、追究している。	現代の社会事象や課題に関心をもち、追究する意欲を高めている。自らも課題を見出しそれらを深く追究しようと積極的に活動している。	
社会的な思考・判断	考察	社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、さまざまな考え方を踏まえ公正に判断する。	○	●	○	○		●			●	○		社会事象から課題を見出すことができず、ある事柄を他の事象と関連づけて考えることができない。	社会的事象を他の事象と関連づけて考えられる。社会事象の課題を見出して、今後どのようにあるべきか自分なりに考えている。	社会事象の意義や役割を吟味し相互の関連などを多面的・多角的に考察している。広い視野に立って社会事象の課題を見出している。その状況を的確に踏まえて今後どのようにあるべきなのか具体的に考えている。また、その内容は公正で理論的にも説得力がある。	
	意思決定	広い視野に立って現代の社会的事象から課題を見だし、よりよい社会を考え責任を果たすためにはどうしたらよいか自分なりに考える。	○	○			●	○	●	●	○	○	○				
資料活用の技能・表現	資料活用	統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用できる。	●	○	●	○	○	○	●			○		必要な資料を選択することができない。読み取った内容が誤っている。話し合いなどでは自分の考えを表現することができない。また、友人の発言を理解することができない。レポートなどで必要な内容を表現することが困難で、未完成である。	必要な資料を適切に選択し、読み取りを正確に行い、表現することができる。話し合いなどで的確に必要な内容を表現している。また、レポートなどでは適切な内容を正確にまとめている。	課題に適した資料が何かを考えて進んで見出すことができる。またその読み取りが正確で、表現も的確である。話し合いなどでは課題の解決に向けて進んで自分の意見を表現して、また友人の考えを受けとめてまとめる力をもっている。またレポートなどでは必要とされる内容を的確にまとめて取りまとめる力のあるものをつくりあげている。	
	表現	追究し、考察した過程や結果を図表化したり報告書などにまとめたり、発表や討論などを行うことができる。			○	○	●	○	○	○	○	○	○				
社会的事象についての知識・理解	政治	現代の社会生活及び政治のしくみや意義を理解するための基本的な考え方、社会的事象相互の関連などの知識を身につけている。	○	○				○	○	○	○			政治や経済のしくみや意義を理解するための基本的な知識を30%未満しか身につけていない。	政治や経済のしくみや意義を理解するための基本的な知識50%程度以上を正確に身につけている。	政治や経済のしくみや意義を理解するための基本的な知識85%程度以上を正確に身につけている。なおかつ詳細に説明ができる。	
	経済	経済のしくみや意義を理解するための基本的な考え方や知識を身につけている。			○	○	○					○	○				